

KANSAI ウォーク 2025

10月18日(土)

第3回大会 奈良・藤原京エリア

遷都…694年

【コース監修】北川 央

(九度山・真田ミュージアム名誉館長)

★MAP上の二次元コードでグーグルMAPをご覧ください。

★コース上の寺院・神社へおまいりされない方は、境内に入らず前をお通りください。

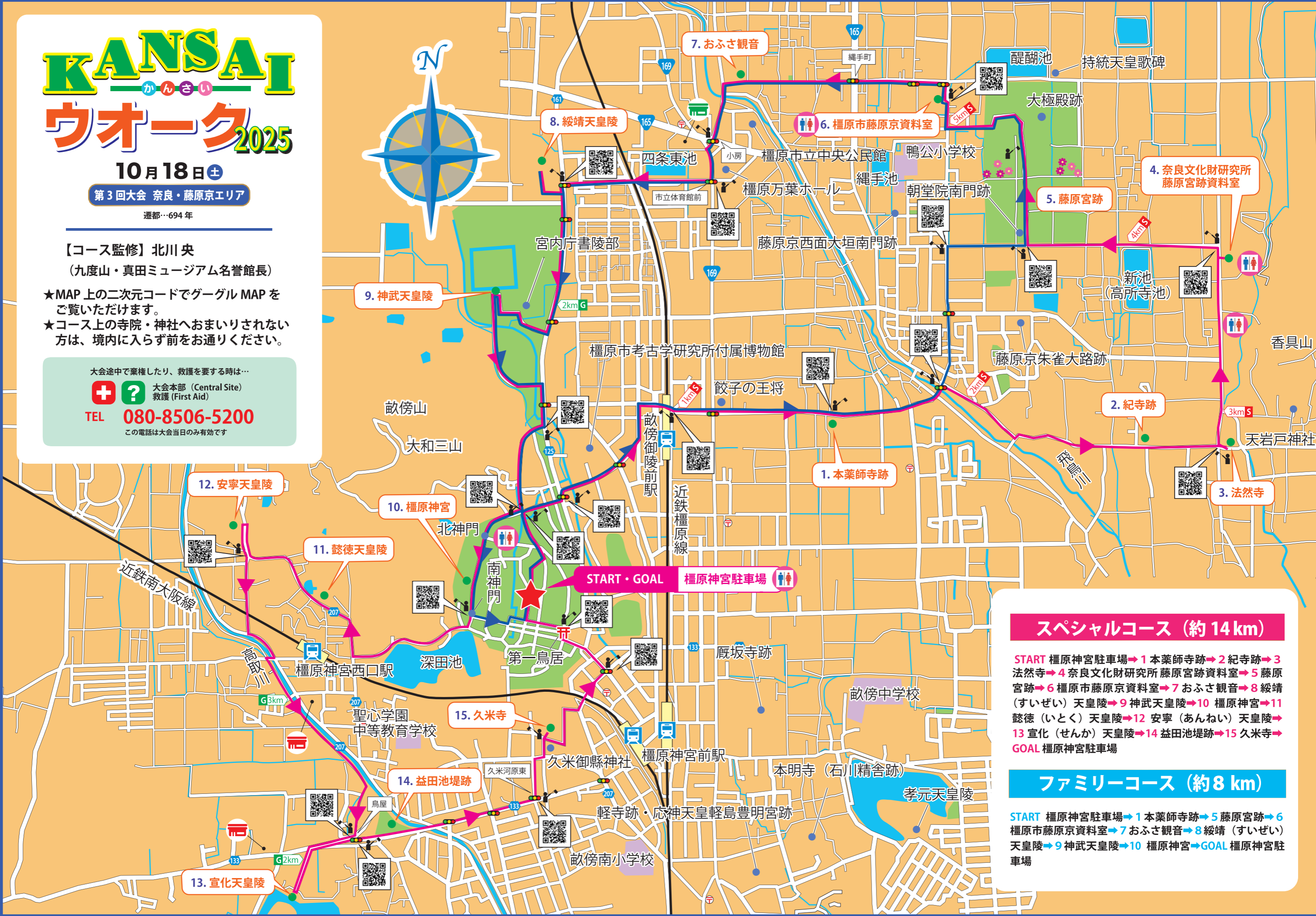
大会途中で棄権したり、救護を要する時は…



大会本部 (Central Site)
救護 (First Aid)

TEL 080-8506-5200

この電話は大会当日のみ有効です



スペシャルコース (約14 km)

START 橿原神宮駐車場 → 1 本薬師寺跡 → 2 紀寺跡 → 3 法然寺 → 4 奈良文化財研究所 藤原宮跡資料室 → 5 藤原宮跡 → 6 橿原市藤原京資料室 → 7 おふさ観音 → 8 綏靖(すいぜい)天皇陵 → 9 神武天皇陵 → 10 橿原神宮 → 11 懿徳(いとく)天皇陵 → 12 安寧(あんねい)天皇陵 → 13 宣化(せんか)天皇陵 → 14 益田池堤跡 → 15 久米寺 → GOAL 橿原神宮駐車場

ファミリーコース (約8 km)

START 橿原神宮駐車場 → 1 本薬師寺跡 → 5 藤原宮跡 → 6 橿原市藤原京資料室 → 7 おふさ観音 → 8 綏靖(すいぜい)天皇陵 → 9 神武天皇陵 → 10 橿原神宮 → GOAL 橿原神宮駐車場

1. 本薬師寺跡（もとやくしじあと）



本薬師寺は、現在、奈良市の西の京にある薬師寺の前身にあたる寺。天武天皇が、後に持統天皇となる皇后の病氣平癒を祈願するため、天武9年（680）に薬師如来を本尊とする寺の建立に着手。完成しないうちに天武天皇が崩御したので、持統天皇がその遺志を継いで

完成させた。当時は、金堂や東西二つの塔があった。平城遷都に伴って寺の伽藍は西の京へ移築されたといわれてきたが、薬師寺建立後も、本薬師寺は当地に存続したことがわかっている。現在は小堂が残るのみであるが、金堂の礎石や東西両塔の上壇、塔の心礎などが残され、往時の壮大な伽藍を偲ぶことができる。

4. 奈良文化財研究所 藤原宮跡資料室



奈良文化財研究所の都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）は、飛鳥・藤原地域の宮、寺院、古墳などの遺跡の発掘や出土遺物（土器、瓦、木簡など）の調査・研究を行っている。藤原宮跡資料室は、その調査・研究成果の一端を一般公開するために設けられた展示施設。藤原

京がつくれる過程、完成した都の様子、住民の暮らしぶり、平城京に移った後の姿などについて遺物や模型・パネルで説明している。

6. 橿原市藤原京資料室



令和8年の世界遺産登録を目指す「飛鳥・藤原の宮都」の構成資産である「特別史跡藤原宮跡」の理解を深めてもらうことを目的に、平成18年（2006）10月、藤原宮大極殿跡に近い、JAならけん橿原東部経済センター2階に開室された。展示コーナーでは、「飛鳥・

藤原の宮都」の構成資産の写真・解説パネル、横幅約7メートル、奥行き約6メートルもの藤原京の1,000分の1復元模型や、柱や瓦といった出土品を展示している。映像コーナーでは、当時の藤原京の様子を詳しく再現したCGや人々の暮らしをわかりやすく描いたアニメーション「よみがえる藤原京 時を駆けたファイターたち」（藤原京遷都1300年記念祭「ロマンピア藤原'95」で株式会社カブコンが製作）などを見ることができる。

9. 神武天皇陵



写真提供：photo AC

初代天皇である神武天皇の御陵で、名称は畝傍山東北陵（うねびやまのうしらのすみのみささぎ）。『日本書紀』『古事記』の伝えるところによると、神武天皇は、九州の日向地方（現在の宮崎県）から瀬戸内海を東に進んで難波（現在の大阪）に上陸したが、生駒の豪族長髓彦（ながすねひこ）に阻まれたため、南下して熊野へ回り、八咫鳥（やたがらす）に導かれて吉野の険しい山を越えて大和に入ったとされる。周辺の勢力をしがえた後、最後に宿敵の長髓彦を倒して大和地方を平定。そして、紀元前660年の1月1日に畝傍山の東南、橿原宮（かしはらのみや）で初代天皇として即位したと伝えられる。名は神大和磐余彦（かみやまといわれびこ）。

12. 安寧（あんねい）天皇陵



安寧天皇は第3代天皇で、いわゆる「欠史八代」の一人。名は磯城津彦玉手看（しきつひこたまてみ）。『日本書紀』によると、第2代綏靖天皇の皇子で、在位38年、57歳で亡くなったと伝えられる。御陵名は、畝傍山西南御陰井上陵（うねびやまのひつじさのみほどのいのえのみささぎ）

で、畝傍山西麓に位置する。前方後円墳状の御陵。

13. 宣化（せんか）天皇陵



宣化天皇は第28代天皇（在位：535～539）。第26代継体天皇の第2皇子で、第29代欽明天皇の兄にあたる。御陵名は身狭桃花鳥坂上陵（むさのつきさかのえのみささぎ）。周囲に濠をめぐらせた前方後円墳の御陵には、天皇だけではなく、先立った皇后の橘仲皇女（たちばなのなかつひめみこ）と孺子（じゅし）といわれる宮中に仕えた童も合葬されたと伝わる。

2. 紀寺跡



明日香村小山と橿原市にまたがって「紀寺跡」と伝えられた場所があり、紀氏の氏寺に由来して「紀寺」と称したといわれてきた。明治10年（1877）頃まで塔の心礎あるいは礎石がわずかに残

存していたといわれているが、寺の具体的な位置は分からなかった。昭和48年（1973）からの発掘調査により、金堂跡、講堂跡、回廊および南門跡を検出し、金堂の西側では瓦窯が見つかった。こうした成果により、紀寺の寺地は一辺240メートルほどの規模であったと推測されている。

5. 藤原宮跡（ふじわらきゅうせき）



藤原京は、我が国で初めて首都として計画的に造られた都市で、『日本書紀』では「新益都（しんやくのみやこ）」という表現で登場する。天武5年（676）、天武天皇は新たな都の選定に着手したが、天皇の死により、一旦、造営工事は頓挫した。その後、天武天皇の皇后であった持統天皇によって、持統4年（690）に工事が再開され、4年後の持統8年（694）に飛鳥浄御原宮（あすかきよみはらのみや）から都が遷された。以来、藤原京は、持統・文武・元明の三代にわたって首都として機能した。京内は中央に宮をおき、中国の都城にならって、縦横に走る条坊道路で整然とした区画割りされた。和銅元年（708）、元明天皇は遷都の勅を発し、同3年、都は平城京に遷る。藤原京の時代は16年間と短い期間であったが、日本が律令国家としての体裁を整えていく、とても重要な時期の都で、大宝元年（701）には大宝律令が完成し、政治のし

くみが整備されるとともに、富本銭（ふほんせん）に続いて和同開珎（わどうかいちん）が発行され、経済の仕組みも変化していくこととなった。発掘調査の成果により、藤原京の規模は平城京を凌ぐものであったことが明らかになりつつある。

7. おふさ観音



「小房（おふさ）観音」は高野山真言宗別格本山で、正式名称は「観音寺」。江戸時代、この辺りは「鯉ヶ淵（こいがふち）」と呼ばれる大きな池で、慶安3年（1650）4月、土地の娘「おふさ」が早朝に池のほとりを歩いていると、白い亀の背に乗って観音様が現れたといい、

小堂を建てて、その観音を祀ったのがお寺の起源と伝えられる。本尊の十一面観音は、もともと身体に健康を授けるといわれてきたが、近年ではそれ以外に厄除け、子授け、長寿と老人病封じを願う人々が多く訪れるようになり、大和ぼけ封じ霊会場の札所にもなっている。春と秋には「バラまつり」が開催され、イングリッシュローズを中心に約2,300種類のバラが可憐に、優雅に咲き競う。大和三仏霊場、大和七福八宝霊場の札所でもある。

10. 橿原神宮



写真提供：橿原神宮

橿原神宮は、橿原の地で即位し初代天皇となった神武天皇とその皇后である媛蹈躰五十鈴媛命（ひめたたらいすずひめのみこと）を祀る。民間有志による神宮創建の請願に感銘を受けた明治天皇により、京都御所内で天照大御神が祀られていた内侍所（賢所）を本殿として、また新嘗祭が執り行われてい

た神嘉殿（しんかでん）を拝殿として下賜され、明治23年（1890）4月2日に官幣大社として橿原神宮が創建された。本殿は国の重要文化財に指定される。同じく重要文化財の指定を受ける文華殿は、柳本藩主織田家の陣屋御殿を移築したもの。柳本藩主織田家は、織田信長の実弟長益（有楽斎）の家系。橿原神宮の神域は広大で、53万㎡にも及ぶ。

14. 益田池堤跡



平安時代初期の弘仁13年（822）に工事が始まり、天長2年（825）に完成した益田池の堤跡。完成にともない弘法大師空海が揮毫した碑文「大和州益田池碑銘并序」による

と、藤原緒嗣と紀末成が旱魃への備えと土地の開拓のために池を造ることを計画したという。この工事には、弘仁12年（821）に空海が改修した讃岐（香川県）の満濃池の技法を取り入れたと考えられているが、益田池の工事に空海自身はかかわっておらず、弟子の真円らが携わった。堤の長さは、当初は約200mで、高さは8m、幅30m。益田池の面積はおおよそ40ヘクタール（0.4km²）に及び、満水時の貯水量は140万トンから180万トンと推定されている。益田池堤跡の南方には益田岩船があるが、これはもともと空海がしたためた石碑の土台だったのではないかと考えられている。

3. 法然寺



法然寺（ほうねんじ）は、鎌倉時代初めの元久2年（1205）3月、浄土宗の宗祖法然上人が高野山から聖徳太子の誕生地である飛鳥の橘寺（たちばなでら）を経て京都に戻る途中、この地に巡錫（じゅんしゃく）し、少林院（しょうりんいん）を開いて念

仏化導の道場とした。その後、大永8年（1528）夏、知恩院第26代の歎蓮社保善源上人（日野大納言豊光卿の子息）が、夢で法然上人から「香具山の 麗の寺はせまけれど 高きみのりを 説きて弘めむ」という歌を賜ったことから、当地に隠居し、「法然寺」の寺号を称するようになったと伝えられる。法然上人（円光大師）25霊場の第10番札所。

8. 綏靖（すいせい）天皇陵



綏靖天皇は第2代天皇で、名は神淨名川耳（かんなめなかわみみ）と伝えられる。神武天皇の第3皇子で、母は事代主神の娘の媛蹈躰五十鈴媛（ひめたたらいすずひめ）とされる。第2代綏靖天皇から

第9代開化天皇までの8代は、『日本書紀』『古事記』に具体的な事績がほとんど記されないことから「欠史八代」と呼ばれる。『日本書紀』の記述によれば、宮は葛城高丘宮（かずらきのかかのみや）で、在位33年、84歳で没したと伝えられる（『古事記』では45歳）。御陵名は桃花鳥田丘上陵（つきだのおかのえのみささぎ）で、初代神武天皇陵の北隣に位置する。

11. 懿徳（いとく）天皇陵



懿徳天皇は第4代天皇で、名は大日本彦耜友（おおやまとひこすきとも）という。いわゆる「欠史八代」の一人。『日本書紀』によると、懿徳天皇は、第3代安寧（あんねい）天皇の第2皇子で、45歳で亡くなったと伝えられる。御陵の名称は畝傍山南磯沙溪上陵（うねびやまのみなみのまなごのたのえのみささぎ）。

15. 久米寺



真言宗御室派の寺。7世紀後半、聖徳太子の弟にあたる来目皇子が、薬師如来に祈願して眼病が全快したことから、これに感謝して建立したと伝わる。一方で、空を飛行中、つい娘に見とれて墜落した久米仙人に

よって創建されたという伝説もある。御室派の総本山である京都・仁和寺から移築された多宝塔は桃山様式を残し、国の重要文化財に指定されている。かつては大寺院だったことが、残された礎石や瓦からうかがい知ることができる。あじさい寺としても有名。弘法大師空海が、「久米寺の東塔に大日経がある」との夢を見て、この寺で大日経を発見したといい、仏教の本質を解き明かす上で大日経が非常に重要であると確信した空海は、唐にわたり、惠果和尚から密教を伝授されたことから、久米寺は「真言宗発祥の地」とも称される。西国薬師霊場第7番、大和北部八十八ヶ所第88番の札所。